

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 体育・スポーツ史の世界—大地と人と歴史との対話—	共著	2012年3月	溪水社	第2部 東の大地との対話p155~176 担当 『明治期から大正期の長崎YMCAにおける「体育事業」の普及と展開』と題し、今まで明らかにされていなかった明治期から大正期にかけての長崎におけるYMCAの社会体育方面での取り組みを明らかにした。(493頁)
2 (著書) 日本の都市YMCAにおけるスポーツの普及と展開—大正期から昭和期(戦前)を中心としたYMCAの「体育事業」—	単著	2015年8月	溪水社	大正期から昭和期(戦前)にかけての日本の各都市YMCAがおこなった社会体育方面での活動を明らかにし、日本のスポーツの普及に関わっていったかを明らかにした。(283頁)
3 (学術論文) 市町村合併によるスポーツ環境の変化に関する調査研究—3つの合併形態区別に基づいた分析から—	共著	2012年3月	レジャー・レクリエーション研究第69号 p. 5-12	平成の大合併を終え、スポーツを行う環境も変化する中で、市町村合併の形態の違いによるスポーツ活動の変化を明らかにし、対等な立場による望ましい環境づくりのための基礎資料を得た。(8頁)
4 (報告書) 中・高校生の部活動適応パターンと生活行動	共著	2017年3月	(財)広島県体育協会	広島県内の中学生、高校生約1,500名を対象に部活動(文化部・運動部)が教育的・社会的効果を発揮できる「場」として機能しているか、19年前のデータと比較しながら検証した。結果、運動部、文化部の違いに関係なく教育的・社会的効果を発揮しており、19年前に比べ、部活動適応者も増加していた。(35頁)
5 (学会発表) 社会的機能を発揮する学校部活動のあり方に関する基礎研究	共著	2017年3月	日本スポーツ社会学会第26回大会	中学校・高等学校における部活動が社会的機能を発揮する「場」として機能するために何が重要となるかその基礎資料を得ることを目的とした。結果、生徒の問題行動に関する認識に対して部内の雑談やミーティングの有無などが関連づけられた。